

# 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)成果報告資料

福島県立ふたば未来学園  
中学校・高等学校

研究開発  
構想名

原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を  
創造するグローバル・リーダーの育成

目的

- 地域探究と海外研修を体系的に位置づけたカリキュラム開発
- 地域や世界の課題解決に挑戦する人材の育成
- 教育と復興の相乗効果の創出、全国の高校への波及

育成  
人材像

- 地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性
- 立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力
- 地域の資源を見出し、地域に新たな価値を創造する力

## ふたば未来学園と双葉郡による広域協働コンソーシアム

- ◆ 県、ふたば未来学園中学校・高等学校と双葉郡8町村を中心とする広域コンソーシアムを構築。
- ◆ 生徒の実践的な学びで地域を活性化し、教育と地域復興の相乗効果を創出。



福島県立  
ふたば未来学園中学校・高等学校

- ✓ 将来の地域ビジョン、ふたば未来学園で育成していく人材像の共有
- ✓ 上記に基づきふたば未来学園で展開する教育活動の企画・立案 等

## 3年間を通じた「地域課題解決の探究カリキュラム」の構築

- ✓ 学校設定科目「地域創造と人間生活」の設置。
- ✓ 課題解決のためのアクションを重視。
- ✓ 教員の関わりを含めた、汎用性のある探究活動指導方法の確立。
- ✓ 地域の特性を考慮した6つの探究ゼミでの実践。

### 原子力防災探究ゼミ

原子力発電所事故後の地域社会のあり方、廃炉と住民の関わり、地域コミュニティの復活について探究する。

### メディア・コミュニケーション探究ゼミ

地域におけるメディア・コミュニケーションの効果的な活用方法、教訓を継承していくための方策について探究する。

### 再生可能エネルギー探究ゼミ

エネルギー供給地としての福島県の特性を踏まえ、エネルギーについて科学的、社会的なアプローチで探究する。

### アグリ・ビジネス探究ゼミ

地域の現状をビジネスや生業の観点から調査し、風評払拭や新たな地域活性化の方策について探究する。

### スポーツと健康探究ゼミ

Jヴィレッジの近隣という立地を活かし、スポーツを通じた地域活性化策や地域の健康増進策等について探究する。

### 福祉と健康探究ゼミ

少子高齢化の先進地域となっている双葉郡の地域性を活かし、地域の方が生きがいのある人生を送る方策について探究する。

## 海外研修等による地域と世界の課題解決

- ✓ 自身が取り組む地域課題解決の探究内容について、海外の同世代と議論。
- ✓ 地域課題とグローバル課題の往還による本質的な課題解決策の模索。
- ✓ 事前、事後研修も含めて、生徒が主体となった海外研修構築プロセスの確立。

### 1年次：ドイツ研修 フライブルク・ミュンヘン

住民の積極的な参画・関与によるまちづくりや再生可能エネルギーの活用について学び、今後の地域の在り方について考察する。  
演劇やプレゼンによる福島の実況報告を行い、地域の理解を促進する。

### 2年次：米国研修 ニューヨーク、国連本部

「持続可能な社会づくり」をテーマに地球規模での課題について国際機関や世界の同世代と意見交換、議論を行う。  
差別や対立・分断について米国の現状を学び乗り越える方策を探る。

# 成果1-1 中高6年間で連動した探究カリキュラムの開発(R4年度～)

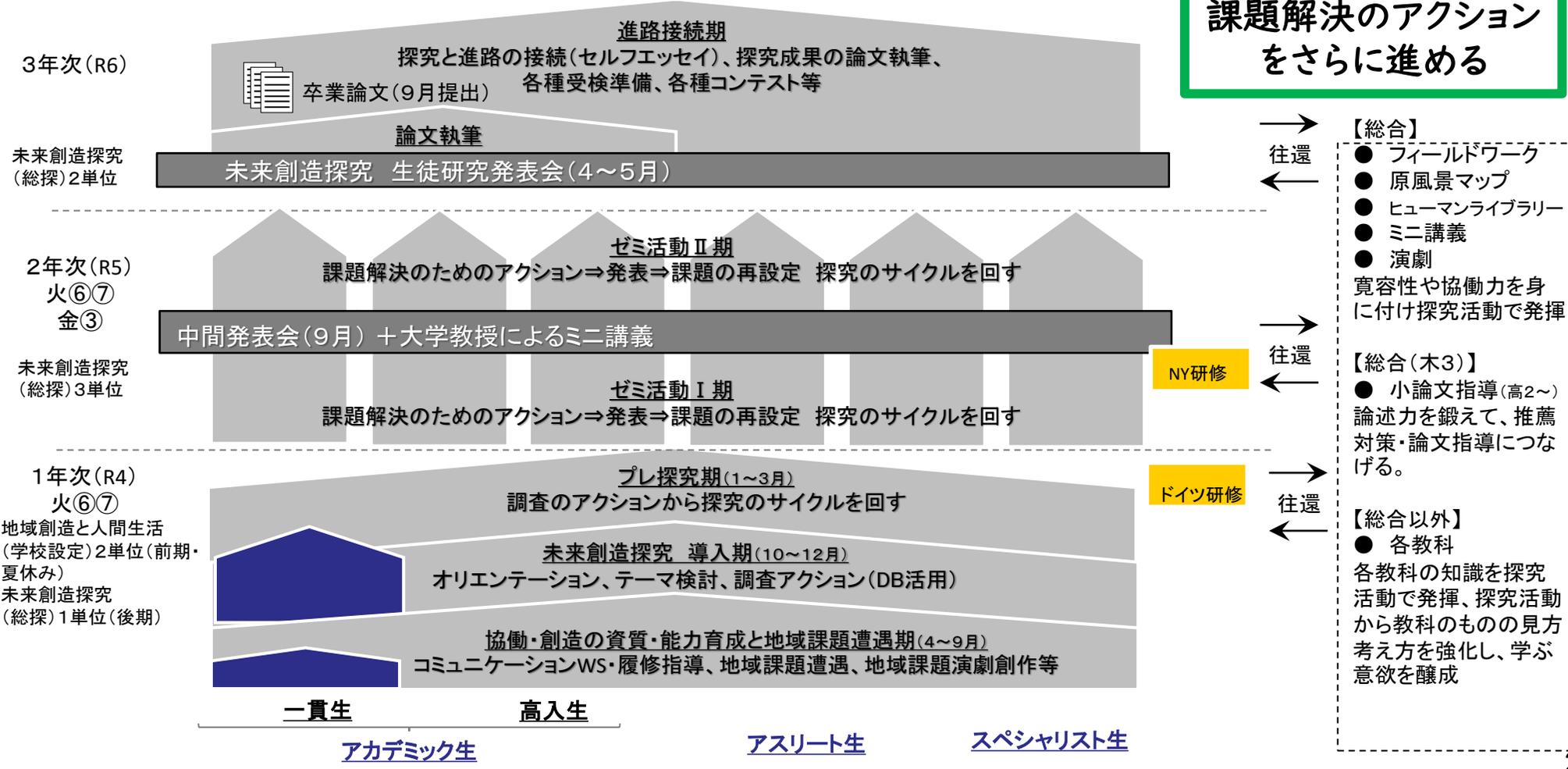
## 原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を創造するグローバル・リーダーの育成

知識 ・ 技能 (スキル・コンピテンシー) ・ 人格 (キャラクター・センス) ・ 自らを振り返り変えていく力 (メタ認知)

**めざすべき  
人材像**

- ✓ 地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性
- ✓ 立場や・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力
- ✓ 地域の資源を見出し、地域に新たな価値を創造する力

**深化ポイント**  
探究の前倒して  
課題解決のアクション  
をさらに進める



- 往還 ←
- 【総合】**
- ライナルドワーグ
  - 原風景マップ
  - ヒューマンライブラリー
  - ミニ講義
  - 演劇
- 寛容性や協働力を身に付け探究活動で発揮
- 往還 ←
- 【総合 (木3)】**
- 小論文指導 (高2~)
- 論述力を鍛えて、推薦対策・論文指導につなげる。
- 往還 ←
- 【総合以外】**
- 各教科
- 各教科の知識を探究活動で発揮、探究活動から教科のものの見方考え方を強化し、学ぶ意欲を醸成

# 成果1-2 「双葉郡の課題」の本質をつかむための探究学習

## 具体的取組 演劇を活用した「双葉郡の課題発見」

「課題遭遇」 バスツアー **過去を知る**

生徒たちは、双葉郡の課題、特に震災時に何が起き、大人はどのような悲しさや悔しさに直面をしたのかを知っているようで知らない。

- ※ 現在の高校生は震災時幼稚園年長～年少世代
- ※ 生徒の6割は双葉郡外出身(県内、北海道～九州等全国)

「地域課題」の演劇創作 **現在と向き合う**

グループで、町役場、商店、東電等を訪ね、地域が抱えている課題を調査し、その課題を演劇の台本にまとめて表現。



**分断・対立を止揚する未来の変革者  
(能動的市民)の入り口に立つ**

皆さんは、課題を探究するのではなく、  
**そこにいる人間の複雑さ、**  
その人間が織りなす社会を探究する

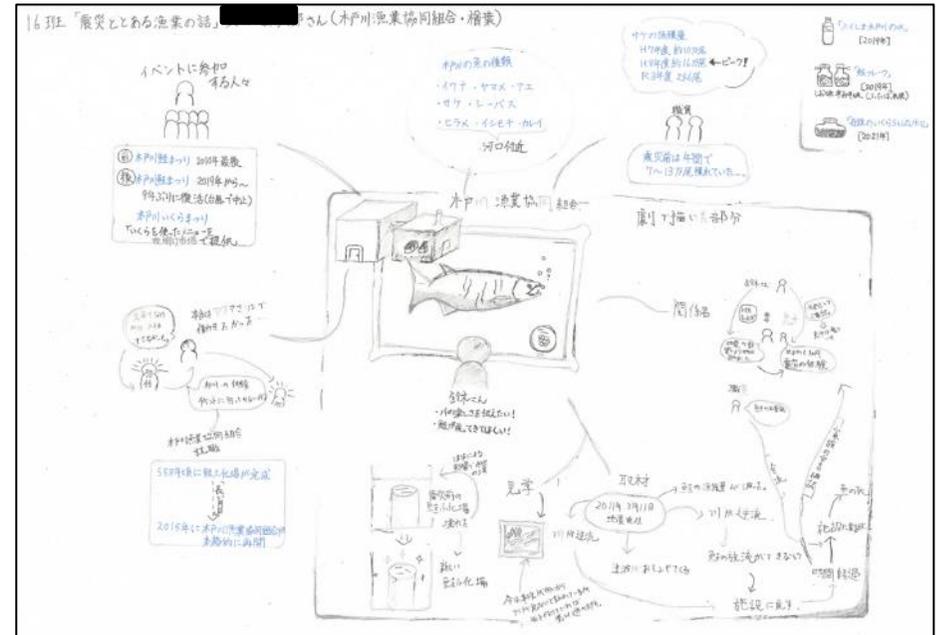
平田オリザさん

2021/12/14 演劇成果発表会講評より

**深化ポイント**

**演劇と探究学習の連動を強化する**

地域創造と 未来創造探究  
人間生活



## 「リッチ・ピクチャー」

生徒が作成した演劇について、登場人物の関係や彼らが抱えている背景、**対立と分断の社会構造**について、演劇を作成後に分析して地域の課題を把握し、1年次後半の探究学習につなげる。

# 成果1-3 「未来創造探究」(事例と課題設定WS)

## 生徒事例(マイプロ全国出場生徒)



地域の課題解決型探究の指導体制はほぼ確立

↓

理系の調査研究型探究の指導体制が弱い

**深化ポイント**  
**探究学習の指導プロセスの精緻化**  
 (課題設定の仕方、調査研究型探究の指導法確立)

課題設定について、調査研究型と問題解決型にわけて、各々の探究のタイプに合わせ、課題設定ワークシートを記入させる。(今後増えていく理系・文理融合型探究に向けて)

### さくらタピオカプロジェクト (4期生)

自分のふるさとしてある富岡町や富岡のさくらをもっと知ってほしいという思いで、さくらタピオカを開発・販売した。

課題設定ワークシート 調査研究型

組 番 名前 \_\_\_\_\_

②この探究で明らかにしたいこと (大リサーチエスジョン)

---

③-1 小リサーチエスジョンA RQ1. RQ2. RQ3. RQ4. RQ5.	③-2現時点での仮説 RQ1. RQ2. RQ3. RQ4. RQ5.	③-3検証方法 RQ1. RQ2. RQ3. RQ4. RQ5.
--	--	---

②を明らかにするための

①現状 (先行研究やこれまでの調査でわかっていること)

13

課題設定ワークシート 問題解決型

組 番 名前 \_\_\_\_\_

②理想の状態 (あるべき未来・ありたい未来)

⑤課題解決のためのプロジェクト (=④に対する検証方法)

---

③問題

④課題設定 (リサーチエスジョン)

①現状

13

# 成果2-1 地域連携事業の面的拡大(双葉郡8町村との連携)

## 双葉郡8町村との連携事例 (未来創造探究)

・稲刈り、スポーツ等のイベントに参加あるいは自ら開催し、村おこしに貢献

・2022年から入居が始まる復興拠点区域のまちづくりに参画

・さくらタピオカによる情報発信  
・週末喫茶店への出店を通じた地域活性化

・特産である「いわな」を具材としたおにぎりのレシピを開発しコンテストで受賞。婦人会とともに調理するイベントを開催

**広域**  
・映像やVRによる双葉郡ツアー  
・マインクラフトでつくる双葉郡



・地域の伝統芸能「請戸の田植え踊り」を次世代に受け継ぐ方策を模索  
・フルーツの活用による浪江町の活性化

・写真を通じて大熊をアピール  
・ネクサスファームおおくまとの連携によるイチゴを使った商品開発  
・大熊っ子座談会  
・トリチウム処理水の本質に迫る

・Jヴィレッジを活用したウエディングプランの策定  
・楡葉小学校との連携による絵画を通じた表現教室

・寄り道できる場づくり  
・広野振興公社との連携によるバナナを使った商品開発  
・広野町探検隊  
・高野病院、花ぶさ苑との連携による福祉活動

常時約 **200** の地域での未来創造プロジェクト実践

**深化ポイント**  
計画を立てるところから“協働”

高校3年次探究  
約 **60** プロジェクト

高校2年次探究  
約 **60** プロジェクト

高校1年次演劇  
**20** プロジェクト

中学生探究  
約 **80** プロジェクト

ほか社会起業部等  
約 **15** プロジェクト

# 成果2-2 コンソーシアムとの連携（例：早稲田大学との協働） （ふくしま広野未来創造リサーチセンター）



## ① 探究活動への協力（専門知への接続）

中学校「未来創造学」、高校「未来創造探究」での生徒プロジェクト一覧を基に、適切な助言者(専門家)を紹介いただき、助言やプロジェクトの支援をいただくとともに、生徒の発表会でも講評・審査にも専門家の視点で参画いただいた。

## ② 「ふくしま学(楽)会」など各種研究会の開催 （地域知・専門知への接続）

半年に一度双葉郡内で開催されている早稲田大学主催「ふくしま学(楽)会」で、地域の方・専門家・中高生の対話の機会となっており、①で取り組んだ内容を様々な主体で議論することで、協働のきっかけとし、探究の深化や実践の加速につなげてきた。これまで参加してきた研究会（「廃炉の先研究会」や「科学とアートによる復興を構想する研究会(A&S研究会)」）やシンポジウムに生徒、卒業生、教員が登壇。

## ③ リエゾンマネージャーの常設



第4回 本校会場での開催

これまで生徒が  
30プロジェクト以上発表  
(2023年1月までに  
10回開催)



1F地域塾の様子  
専門家、地域の方、中高生  
や教員などが1F廃炉について  
学び意見を交わす場



生徒の探究内容について大学の先生方が助言・支援



「ふくしま学(楽)会」で多様な主体で議論を深める



生徒たちの探究の加速  
(事例「H30 高校生と考える廃炉座談会」)

深化ポイント  
専門家やリエゾン  
マネージャーの  
見立てで生徒の  
探究を個別最適化

# 成果2-3 コンソーシアムとの連携 (例:カタリバとの協働)

未来創造探究 各ゼミ

教員

探究  
マネジメントリーダー

- 原子力防災探究
- AI・コミュニケーション探究
- 再生可能エネルギー探究
- アグリ・ビジネス探究
- スポーツと健康探究
- 福祉と健康探究

教員

探究アドバイザー  
(グループをみる)

4~8グループ



ゼミ担当  
教員

カタリバ  
スタッフ



ゼミ  
リーダー

ゼミ担当  
教員

カタリバ

探究  
アドバイザー

月次会 (年6回程度)

学校

教員

企画研究開発部  
カリキュラム責任者



- ・カリキュラムマネジメント
- ・全体教材の作成 (探究ノート等)
- ・各探究ゼミの取りまとめ
- ・各種勉強会の実施

教員

教務主任/学年主任  
その他担当教員



- ・授業 (教科学習)
- ・課外活動の指導
- ・進路指導

連携・協働

連携

授業設計/  
相談



カタリバ

コーディネーター(CN)



- ・カリキュラム責任者の先生との連携、サポート
- ・アドバイザーの配置、育成
- ・専門家人材、地域人材のコーディネート

コラボ・スクール  
双葉みらいラボ

- ・双葉みらいラボの設置、運営
- ・ユースワーカーの配置、育成
- ・専門家人材、地域人材のコーディネート
- ・教員への生徒情報の共有

スタッフ・  
学生インターン



派遣

連携



地域

地域コーディネーター



- ・地域の方々のコーディネート

コーディネート

コーディネート

専門家人材・協力者等

専門家

大学生



地域

地域の方々

地元企業の方々

組合の方々



深化ポイント  
毎週の企画部会  
で教員とCNが  
協働

# 成果3 海外研修・世界への発信～

～福島の子とグローバルな課題を重ね合わせて考える



地域課題解決の実践から見出した、「持続可能な世界実現」への提言を世界で発信。  
福島の課題とグローバルな課題を重ね合わせてディスカッションし、地域に還元。

**深化ポイント**  
計画を立てるところから“協働”生徒主体の研修を作る

コロナ禍でもオンライン対話や代替研修で学びを止めない

## <コロナ禍における海外研修>

### ドイツ(高校1年)

ホームステイをしながら同世代と持続可能な世界の実現について議論。再生可能エネルギーによる町づくりや、ホロコーストの教訓の伝承等も視察し、福島の今後を考える。



### ニューヨーク・国連本部(高校2年)

国連本部職員に、地域課題解決の取り組みから自分たちが見出した世界への提言を発信。  
8日間の滞在中に、同世代や大学院生等8回のプレゼンテーションとディスカッション



### ⇒徳島県上勝町研修&VRホームステイ

「ゼロ・ウェイスト」を掲げる国内の環境最先端地で研修。それを元にドイツの高校生とオンライン対話を実施。



### ⇒双葉郡バスツアー



**Fukushima "Hamadori" Tour**

Hi, there! We are 2<sup>nd</sup> grade students at Fukushima Prefectural Futaba Future High School. We are holding this tour, hoping that people from foreign countries can learn about the damage caused by the Great East Japan Earthquake and Tsunami in 2011, and the ongoing process of revitalization, as well as experience unique activities relating to culture, history, nature and food in this area. Please join us!

**Come and visit our towns!**  
You can join our tour for **FREE!!**

- Number of participants: 12 students
- Schedule: March 7<sup>th</sup>(Mon) – 10<sup>th</sup>(Thu)
- Language: English
- Accommodations: Hirono Town
- Fees: Free (except for lunches)

**Let's learn and enjoy "Hamadori" (coastal area)!!**

\*We are holding this tour, hoping that more people learn more about the coastal area of Fukushima. We believe that in the future it will be more and more important for us to keep an interest in social problems engaging in the world as if they are their own, because it would be the key to achieving SDGs that the whole world is aiming to solve. We would be happy if every participant in this tour could take this opportunity to do so. We are looking forward for many of you joining this tour!

From the Representative student of this tour project

**Brief Itinerary**

- Day 1: Arrival in Fukushima (a.m.)
- Day 2: Futaba County and Some City (Mitsuo, Tomioka, Namie)
- Day 3: Futaba County (Ikebuchi, Aketama, Okuma, Futaba)
- Day 4: Departure (a.m.)

Fukushima Prefectural Futaba Future High School  
1-6-3, Chupoda-1-chome, Futaba City, Fukushima, 971-8502, Japan  
Tel: +81 24 231 2100, Fax: +81 24 231 2101

立命館アジア太平洋大学の留学生を招き、双葉郡を案内

# 成果4 探究フェイズに応じた教員の関わり方モデルの構築

探究フェーズ	Stage1	Stage2(1)	Stage2(2)	Stage3			Stage4
	問題発見 課題設定	現状分析	解決仮説	解決アクション① 考察 新たな課題	解決アクション② 考察 新たな課題	解決アクション③ 考察 新たな課題	考察 論文作成 進路実現
探究内容	・問立て ・研究動機 ・目標設定 ・哲学対話	調査 調査のための アクション 整理・分析	解決のためのアクション 仮説 構造化し他の問題・課題 との関係性を知ること	・解決のためのアクション ・より本質的な問題の発見 ・具体的な解決アクション	・考察 ・新たな課題設定		・考察 ・論文作成 ・提言 ・進路実現

カリキュラム 段階	人生/2年次生前期	2年次生後期	3年次生前期	3年次生後期
--------------	-----------	--------	--------	--------

【生徒】 各変容 フェーズ における 望ましい 具体的態度 や行動	「守」：受容的な 姿勢 正確に物事を知り 探究の 基礎を作る	「破」：生成的な 姿勢 柔軟に他の問題と 繋がたり 想像力を働かせる	「離」：持続的に 取り組む姿勢 リスクを恐れず チャレンジ 実践を連鎖させる	
---	--	--	--	--

【教員】 担当者の 働きかけ	インストラクター (現状を正しく捉えさせる) ・知識のレクチャー ・調査研究(書籍/WEB/インタ ビューなど)	ファシリテーター (問いを立てて引き出す) ・問いを通してテーマを深化させる ・生徒自身が本当に取り組みたい実 践を引き出す	メンター (応援・勇気づけをする) ・実践への勇気づけ ・実践後の振り返り(リフレクション)	
----------------------	--	--	---	--

<p style="text-align: center;"><b>深化ポイント</b> “ジェネレーター”としての関わり方</p>	<p style="text-align: center; color: yellow;"><b>ジェネレーター</b> (自らも発言し発見とコミュニケーションを生成する)</p>
--	--

# 積み残した課題と今後の展望

## ① WWL申請に向けて

- ・英語活用力向上を強化し、「グローバル・リーダー」の育成に向けて

## ② 教科横断的な学習と総合探究、教科と探究の往還関係の構築

- ・偶発的なクロス・カリキュラムから教科横断的な学習をカリキュラムに統合する方法の研究

## ③ 地域復興と教育の相乗効果を生み出す探究学習

(+ 生徒・教員・地域の方の三者が探究学習を通じて、ウェルビーイングが向上する形)

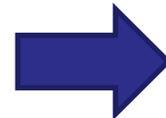
ふたば未来学園の教員からの問い

「探究学習は地域住民のウェルビーイング向上を実現できるのか？」

## ④ 全校で探究学習を伴走するための校内研修の充実

<校内研修の時間削減の要因>

- R2 コロナ対応に伴うオンライン授業への対応
- R3 多忙化解消に伴う校内研修時間の削減
- R4 アカデミック系列の週36単位に伴う授業時間の確保



結論

どんなに忙しくても目線合わせの時間は必要不可欠  
「校内研修は必要」

協働

学力概念	No	資質・能力・態度(まとめると)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識 Knowledge "What we know"	A	<b>社会的課題に関する知識・理解</b> 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に着ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深堀し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。
	B	<b>英語活用力</b> 英語を使つてのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(CEFR A2レベル)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(CEFR B2レベル)
技能(スキル・コンピテンシー) Skills "How we use what we know"	C	<b>思考力</b> 物事を論理的に考え、批判的思考で掘り下げ、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えることができる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	現実と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考え、本質を追求することができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれず、本質的・根源的な問いを立て、多面的に考えることができる。
	K	<b>創造力</b> 自分なりの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな独創的価値を創造することができる。	アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基いた観察や思考を行うことができる。	好奇心をもって、他者との違いを楽しみながら自分なりのアイデアを生み出そうと行動できる。	目の前の課題に対して、これまでに得た知識や技術を関連づけながら、自分なりのアイデアを実現しようと行動できる。	行動する中での出会いから得られた知見や発想を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに高めることができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更け、社会に新たな独創的価値を創造することができる。
	D	<b>表現・発信力</b> どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも億せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。	データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えたり、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って胸に落ちる形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	<b>他者との協働力</b> 異文化・異なる感覚の人・異年齢等乗り越え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。異文化・異なる感覚の人・異年齢等乗り越え、仲間と協力・協働する。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことに一人取り組むことができる。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者の中で、他者の良さに共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動を進め合意形成を目指すことができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を作ることができる。	分断・対立、文化・国境を超えて、社会を改革する行動にうつし、互いに高めあう同志としての関係をつくれる。
	F	<b>マネジメント力</b> 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を待たず、解決に向けた適切な目標を設定し、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対処することができる。	作業の繋がりが、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担して目標に向けた行動ができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	<b>前向き・チャレンジ</b> 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず遂行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好意的に捉えて、主体的に取り組める。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけ、すぐに取り組む方法が分からなくても考え続けることができる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
人格(キャラクター・センス) Character "How we engage in the world"	H	<b>寛容さ</b> 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、協調して共に高めようとするができる。	集団や他者の中で、他者を気づかえる。	集団や他者の中で、相手の立場や考えを想像し、共感できる。	集団や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを考えることができる。	考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接するなど、他者との違いを楽しめる。社会や環境の変化を前向きに捉えられる。	考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと受け入れられる。
	I	<b>能動的市民性</b> 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意欲と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語るができる。
自らを振り返り変えていく力(メタ認知) Metacognition "How we reflect and learn"	J	<b>自分を変える力</b> 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づく方策を考え自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中での自分の役割や意義を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大局的に行動できる。

自立

## 【生徒の成長と能力の伸長】

高校3年次 卒業時アンケート(卒業式前日に調査)

質問項目			高評価	低評価
Q1 未来創造探究は、 <b>あなたの卒業後の 具体的な進路選択に影 響を及ぼしましたか？</b>	6期生	R4年度	2月末集計	2月末集計
	5期生	R3年度	66.9	33
	4期生	R2年度	65.7	34.2
	3期生	R元年度	50.5	49.5
	2期生	H30年度	57.6	42.4
Q2 未来創造探究での活 動を、入社試験や入学 試験に活用しました か？	6期生	R4年度	2月末集計	2月末集計
	5期生	R3年度	57.2	46.6
	4期生	R2年度	66.3	33.6
	3期生	R元年度	59.3	40.7
	2期生	H30年度	61.6	38.4
Q3 未来創造探究は、 <b>あなたが将来「社会と どう関わって生きてい きたいか」を見出すこと に繋がりましたか？</b>	6期生	R4年度	2月末集計	2月末集計
	5期生	R3年度	87.4	12.6
	4期生	R2年度	88.4	11.6
	3期生	R元年度	80.6	19.5
	2期生	H30年度	79.8	20.2
Q4 未来創造探究は、 <b>あなたが自分の価値観 を考えることに繋が りましたか？</b>	6期生	R4年度	2月末集計	2月末集計
	5期生	R3年度	87.4	12.6
	4期生	R2年度	90.2	9.8
	3期生	R元年度	86.7	13.3
	2期生	H30年度	86.7	13.3

「グローバル型」指定年度

### ルーブリック



ふたば未来学園  
ルーブリック詳細

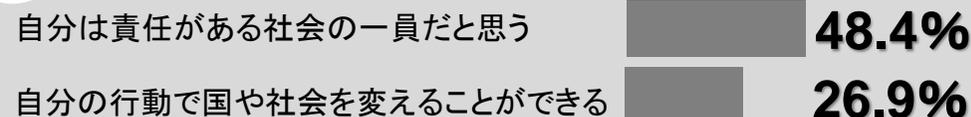
I		<b>能動的市民性</b> 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域 や国内外の未来を真剣に考えることができる。
J		<b>自分を変える力</b> 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に 改善しようとする意識を持ち、次の行動や、将来 の夢に繋げることができる。

卒業年度	H29	H30	R元	R2	R3	R4
学年	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生
I. 能動的市民性	1.91	2.84	3.21	2.81	2.92	3.08
J. 自分を変える力	2.04	2.63	3.15	2.78	3.04	3.26

### 深化ポイント

未来創造探究が自らの課題を発見しながら  
自己の生き方在り方を模索することにつながる  
能動的市民性・自分を変える力(メタ認知)↑  
自らを変え、地域を変え、社会を変える  
「変革者」に求められる資質・能力

比較 日本財団 世界の18歳意識調査の日本の結果 (2021年実施)



【参考】 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シートより

1. 本構想において実現する成果  
目標の設定（アウトカム）

	項目	2021年	2022年	目標値
		昨年	今年	
a	本校で規定する人材育成要件・ルーブリックレベルの3年次最終調査における平均値	<b>2.90</b> (最終)	<b>3.03</b> (最終)	<b>3.5</b>
b	卒業時における、将来的な地域への貢献意識（社会との関わり）や、本事業による自身の価値観への影響の肯定的意見の割合で70%以上	<b>87.4</b> %	2月 集計	<b>70</b> %
c	本事業に関する保護者アンケートによる肯定的意見の割合	<b>88.5</b> %	2月 集計	<b>70</b> %

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

	項目	2021年	2022年	目標値	
		昨年	今年		
a	地域の個人、団体との協働による課題探究プロジェクト数	目標	<b>45</b>	<b>50</b>	<b>50pj</b>
		実績	<b>60</b>	<b>69</b>	
b	視察、研修、発表会聴講等で来校する教育関係者、地域関係者等の人数	目標	<b>230</b>	<b>250</b>	<b>250人</b>
		実績	<b>192</b>	<b>168</b>	
c	生徒の外部発表、コンテスト応募件数	目標	<b>40</b>	<b>45</b>	<b>45件</b>
		実績	<b>44</b>	<b>47</b>	

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

	項目	2021年	2022年	目標値	
		去年	今年		
a	本校の活動に関わっていただく地域の活動団体または個人の年間のべ件数	目標	<b>180</b>	<b>200</b>	<b>200人</b>
		実績	<b>310</b>	2月集計	

\* bの変遷については成果6-1を参照

\* 2022年の数値は12月28日現在の数値です

全国  
マイプロジェクト  
アワード

4年連続  
全国出場

全国マイプロジェクトアワード 2020 **全国大会出場** 2020年3月  
全国マイプロジェクトアワード 2021 **全国大会出場** 2021年3月

Glocal  
High School  
Meetings

2年連続  
金賞

Glocal High School Meetings 2021  
日本語部門 **金賞** (文部科学省中等教育局長賞)  
英語部門 **銀賞**  
Glocal High School Meetings 2022  
日本語部門・英語部門 **金賞W受賞**  
2022年1月

ふくしま高校生  
社会貢献活動  
コンテスト

過去6回中  
最優秀3回

**最優秀賞(2020)**  
富岡さくら復興プロジェクト  
**福島大学アドミッション  
センター長賞**  
アグリ・ビジネス探究ゼミ

**優秀賞(2021)**  
・社会起業部  
・メディア・コミュニケーションゼミ  
(ふたばメディアグループ)

**最優秀賞(2022)**  
ひとりひとりが取り組む防災  
**優秀賞**  
社会起業部カフェチーム

令和2年(2020年)

令和3年(2021年)

令和4年(2022年)



2020年  
オンライン授業の環境整備と指導者研修会  
感染症による休校下において、オンライン授業の普及のための各校教員向け研修会を複数回実施(県内中高、特別支援より参加)

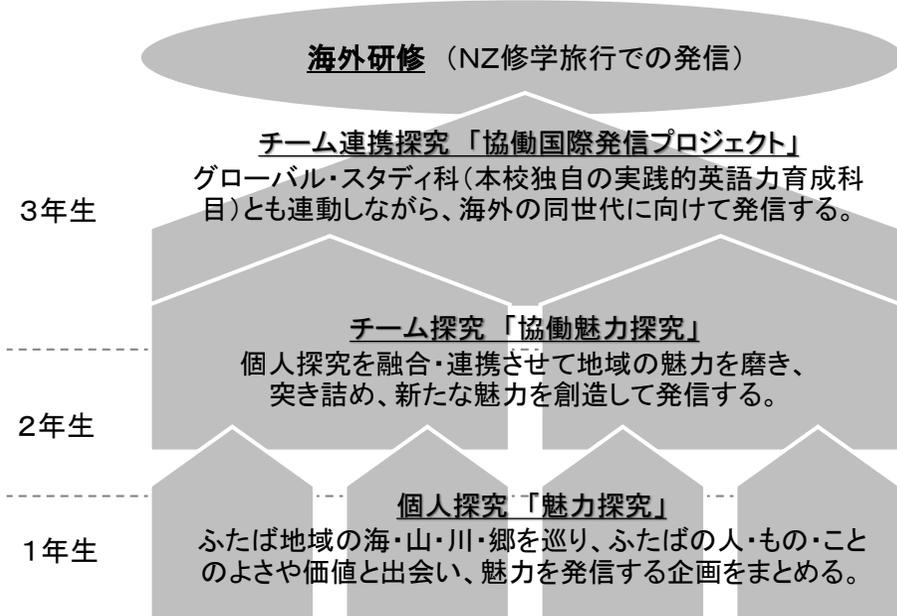


2021年6月  
みらいフォーラム(文化祭代替行事)  
ジャーナリスト北角裕樹さん来校。ミャンマーからの留学生とともに、情報発信の在り方について、ディスカッションを行う。



2022年10月  
ごちゃまぜ探究カイギ  
ふたば未来学園の生徒・教員・地域の方が集まり、東日本大震災から11年後の双葉郡の今の課題を共有し、生徒の探究学習につなげる

## 中学校3年間の「未来創造学(総合的な学習の時間)」の流れ



### ○ グローバル・スタディ科

英語で議論したり、プレゼンテーションを行ったりする学習で実践的な英語を学ぶ。中止となった修学旅行(全員がNZ渡航予定)での「福島発信」の代替として、**海外からの留学生を招いて未来創造学での自身の実践を発信。**



### ○ リーダー学

社会を牽引してきたリーダーと出会い、生き方や困難の乗り越え方について話を聞き、各自が「リーダーシップとは何か」を考え、地域でのプロジェクトや学校での活動に生かしていく。



### ○ 未来創造学(総合的な学習の時間)

『ふたばの良さを発信する』をテーマとして、**双葉郡の魅力**を磨き、発信。生徒たちの実践は、**文献には記載のない地域で「五社山嵐」と呼ばれる季節風の存在を44年分のデータや地形図から実証したものや、村の魅力に深く触れられるゲームの開発等様々。**

